

E 4 九州における高令者の生活実態—佐賀県伊万里市大川町における—オズ報  
九州福岡教育大 平田 昌 東筑紫短大 花崎正子  
西九州大家政 河野孝子 ○活水女子短大 赤星礼子

目的 伊万里市大川町の老人(60才以上)の経済生活を明らかにする。

方法 老人の経済生活を、老人の子家族との同居形態、就業状況、そして収入状況という3つの側面から調査分析した。

結果 老人のうち子家族と「同じ様で、生活費も一緒」という同居形態をとるのは、約6割である。息子夫婦との同居では、家計の負担者が息子になる場合が多い。老人も、60才台で、収入のある仕事に就いており、比較的自らの収入の多い場合は、家計の負担者となる場合が多い。

収入のある仕事に就いている老人は、全体の44%、男性58%、女性33%である。職種は農林業自営主と農林業家族従事者で過半数(54%)を占める。就業率は加齢に伴って低下する。男性は70才以上で、女性は65才以上で無業者が有業者を上回る。有業者の継続就業意欲は高く、「できるだけ長く」(52%)、また「しばらく」(31%)続けたいとしている。就業の有無には、老人の健康の良否が大きく影響している。

老人の約9割が、年金や恩給を受給している。国民年金(64%)、厚生年金(15%)の受給者が多い。老人の年収は、平均57万円である。収入の多い老人は、収入のある仕事に就いている場合が多い。

大川町における老人の経済生活は、その地域特性も考慮すると、比較的安定しているといえよう。また、老親子同居の実態には、その経済的基盤に関して重要な示唆を含んでいることが分かった。